

右が「安来市認知症ケアパス」、左が今回発行した市民版。

認知症は みんなでは 支えま す



安来市認知症ケアパスの市民版を作成。

問い合わせ：介護保険課 (☎ 0854-23-3290)

2025年には65歳以上の5人に1人が発症すると言われる認知症。介護する家族や本人で抱え込むことが多くなりがちです。安来市では、あらゆる場面で家族や本人を支える仕組みを構築しています。認知症で困ったり不安だったりするときはお気軽に相談ください。

誰もがなり得る認知症

間もなく「平成」が終わり、新しい元号が決まります。この平成時代は、高齢化社会の課題と共に歩んできました。国は、平成元年（89年）に高齢者対策の強化目的でゴールドプランを策定、また、平成12年（00年）に介護保険制度を開始しました。最近では、急増する認知症への対策のため、平成27年（15年）に新オレンジプランを策定しています。

日本は世界でもっとも早いスピードで高齢化が進んでいます。このため認知症になる人が急激に増えています。厚生労働省の推計によると、2025年には65歳以上の5人に1人、約700万人が認知症になると見込まれています。誰にでも起こり得るのが認知症です。

一方で、認知症の本人のみでなく、その介護する人への対応が急務です。とくに認知症の場合、目が離せなくなり、介護が大きな負担になります。そし



介護保険課 小川課長

て、家族の中で抱え込んでしまうことが多くなりがちです。また、認知症の増加に反比例しているのが、日本の家族構成です。かつては3世代・2世代同居世帯が多かったのが、今は夫婦のみの世帯や単身世帯が多くなりつつあります。その結果、老々介護など、さらに大きな負担を強いられる場合は少なくありません。

認知症ケアパスを策定

「家族が孤立しないことをいちばんに考えていかなければなりません」と話すのは、介護保険課の小川課長。「認知症の人を家族のみで介護しようとすることは、大きな負担です。さらに、介護中心の生活となり社会



高校で認知症サポーター研修を実施

平成28年度から安来高校と情報科学高校で定期的に認知症サポーター講座を開催しています。安来市認知症疾患医療センターから講師が派遣されています。

から孤立しがちです」と課題を指摘します。
市では関係機関と連携しながら予防や相談をはじめ、認知症の症状（初期～中期～後期）に応じたサービスを提供しています。あらゆる場面で本人や家族を適切に支える仕組みをケアパスと言います。平成27年に「安来市版の認知症ケアパス（※）」を策定し、介護事業所や医療関係者でサービス制度や情報を共有しています。
小川課長は「ケアパスは本人や介護する家族が、自分だけで抱え込まず、また、関係機関が様々な場面で支えるという安心

感を持つていただくために策定しています」と、その目的を明かします。

また、「できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けていただきたいと考えています。このためには、その人に合った各サービスを受けることが大事です。ケアパスは、あらゆる場面で必要なサービスや受けることのできるサービスなどを図式化し、イメージしやすいようにしています」ともう一つの意図を話します。

予防からはじまり、認知症の容態の変化に応じて切れ目なく、そのときにもっともふさわしいサービスを受けることができるよう整理されているのが認知症ケアパスです。

※安来市認知症ケアパスは平成31年度に改訂予定です。

市民版の認知症ケアパスを作成

市では今年度、市民版の「認知症ケアパス・認知症チェックリスト版」（市民版ケアパス）を作成しました。市役所や介護事業所などで希望者にお配りしていきます。

この市民版には「認知症チェックリスト」を掲載しています。認知症は早期発見・早期

診断が大切です。また、誰にでもなり得る病気です。65歳以上

の人は一度、チェックしてみてください。



安来市地域包括支援センター（安来市認知症対策推進会議委員）
足立 卓久
センター長

この市民版ケアパスは、「認知症の人にやさしい安来づくり」を目指して発行しました。これは、本人や家族が、なじみある住みなれた地域で、安心して暮らし続けることができるためのメッセージです。

当センターへの認知症に関する相談は急増しています。平成28年度は166件だったのが、29年度は323件と倍増しています。今年度はさらに増加し、3・6倍のペースで増えています。こういった状況から、市民の皆さん向けのケアパスを作成・発行しました。

住みなれた安来で
安心して暮らし続けることができるためのメッセージです

特徴は「認知症チェックリスト」を掲載していることです。症状の疑いのある人は自尊心があり、自ら認めたくない気持ちがあります。また、家族から言われるとなおさらです。このリストで、自分はどうな状態なのか、自身で把握する一つの目安として活用いただきたいと思います。

また、認知症で困った時のさまざまな支援内容を掲載しています。本人や家族の方々が安心して暮らし続けていただくための情報です。認知症に関するガイドブックとして役立てていただきたいと思います。

